

連珠っておもしろい

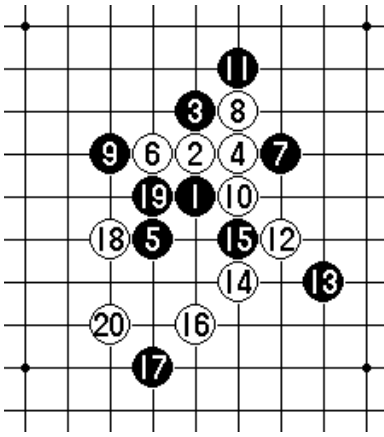
九段 河村典彦

● 第77回 ●

■ はつきりさせる

実戦で勝ちと思っていた局面で勝てないことがよくある。研究の結論だけを覚えていて、内容を覚えていないからだが、そういうのははつきりさせておいた方がいい。今回は1月の阪神カップでの久保さんとの一戦から題材にしてみよう。

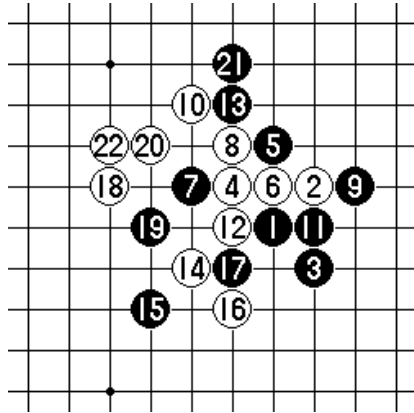
黒 久保 白 河村



寒星で黒5を示され、白6で浦月共通に戻るのこ

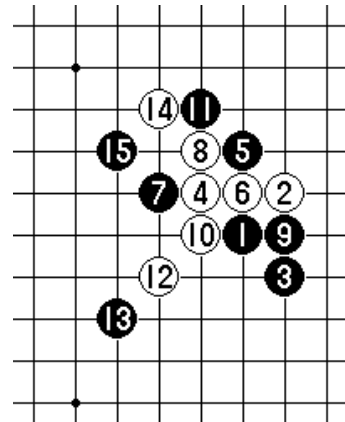
れは白勝ちだと思っ
ていたが、勝ちが全
然思いつけな
い。実戦は白20以
下何とか白が勝て
たが、黒に正確に
応酬されたら勝て
なかった。

この局は白6を10
に打っておけば黒に
防ぎがなかったの
で、改めて浦月ス
タートから考えて
みることにしたい。

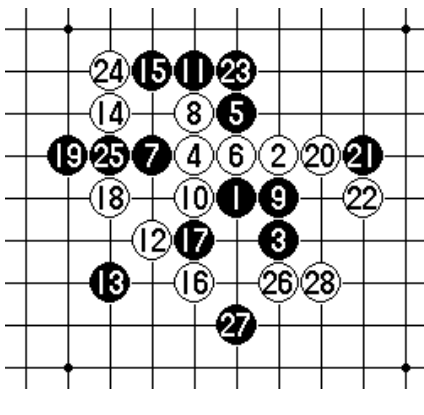


実はこの形は7年
前の珠友に書いてお
り、白8に黒9の
防ぎなら、白10
から追いつける。な
るほど、結論付
けたのかと納得
したが、その

時に同時に次の形
が未解決とも書
いている。

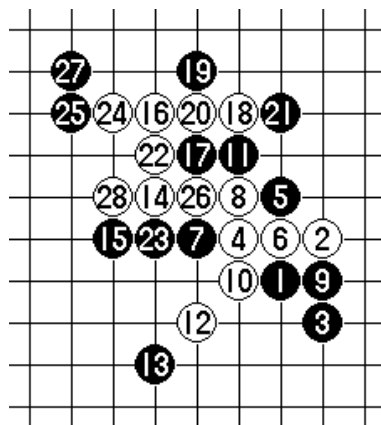


白14がばらばら
の剣先をつなげ
る妙手だが、黒
15がしぶとい
防ぎで、これ
で明確な勝ち
が見つかって
いない。そこ
で、今回はこ
の勝ちを見つ
けようとい
うこ



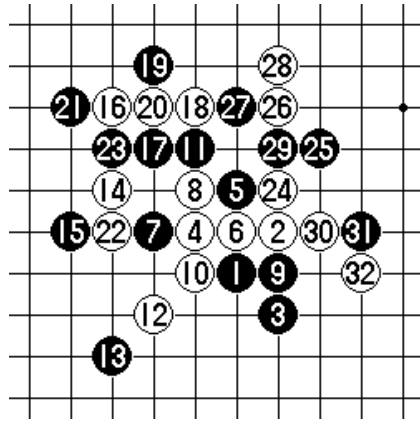
とである。

いろいろ調べたが、白14を15に打てば勝てそうなのに気がついた。この手に対し交換に黒15と打つと、白16から追い勝ちがある。これがミスである。(白28まで三々禁) なので黒は15に防げず、19に防ぐのが強くなる。

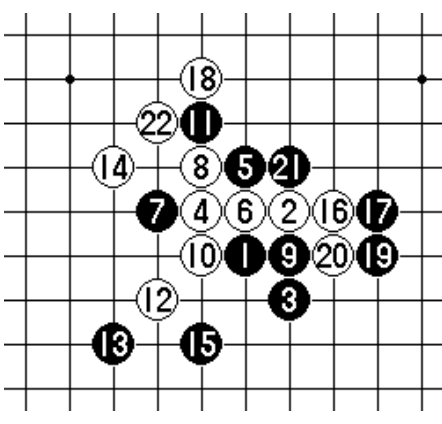


黒15と斜めの筋を止めるのが強いが、白16と打つて今度は上辺で勝ちを狙う。黒17と剣先を止めるのが当然強いのだが、ここで白18と右辺の利きを使い、黒19の止めにより白20から勝ち形となる。

黒21の逆止めも、やはり右辺の剣先が働いてきて、白32まで長連禁となる。

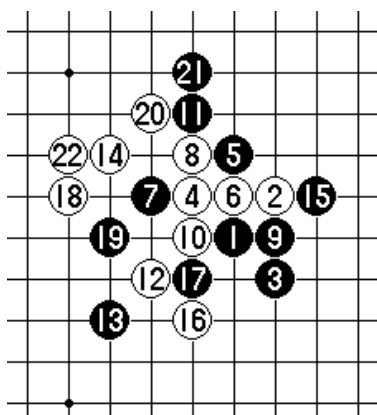


そもそも、黒15を図のように下辺に止め、白に呼手が打てないようにしても、



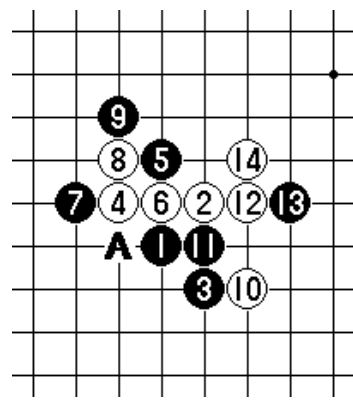
白18が含み手になるので、一旦先手を取っても、白20で取り返せるので安心だ。白22と引ければ以下容易である。

また、黒15で次図のように右辺の剣先を止めたとしても、今度は上下の連結で追い勝ちをすることができるとにかく、白22まで含んだ形を打てれば黒に防ぎはない。



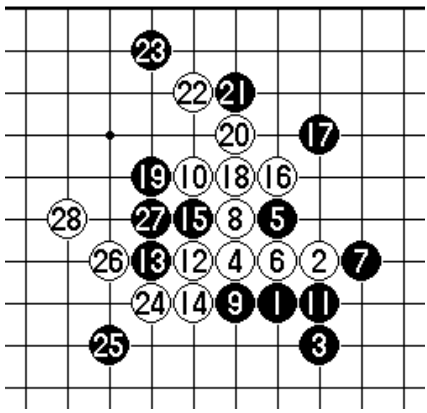
これで黒9の防ぎが解決したので、他の防ぎも同時に調べておこう。例えば、黒9と止めるのも強そうだが、これには白10と14と打

って、あつという間に三々禁になる。

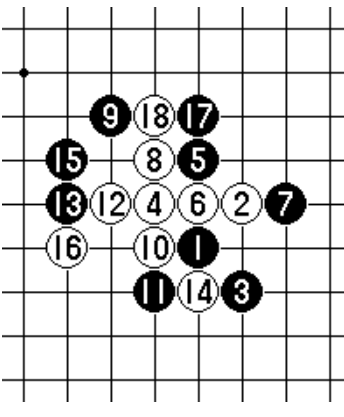


また、黒9をAなら、白10を11でこれも簡単な三々禁だ。

あとは黒7の反対止めを解決すれば、黒5に対し白勝ちと言えることになる。



白8と組んで、黒9を12と打てば冒頭の図に戻るのだ、黒は9と防ぐぐらいだが、白10と引いて恒星定石のような攻め方になる。白なので余計に簡単な勝ちとなり、迷う所もない。



黒9と止めても、白10から素直に引いていけばよく、白18でこれも三々禁だ。こうやって未解決の局面を一つ一つ減らしていくことが大切で、中途半端のままにしておく、いつか痛い目に遭う。

浦月も題数指定打ちでは五題だが、四珠交替になれば白4を変えてもっと多題が打てるだろう。